

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

牛久市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	牛久市の市章は1960年(昭和35年)7月1日に制定されました。全国から公募した約1,000点の中の当選作です。「牛」を大鵬(おおとり)の両方の翼に見立て、「久」はカタカナのクを円形にまいて、協力と円満を示しています。	4
2	現在牛久市で最古の石器は、ひたち野牛久地区の馬場(ばば)遺跡や隼人山(はやとやま)遺跡で見つかったナイフ形石器です。この石器は、その特徴から約3万年前の旧石器時代のもと考えられています。	1
3	蛇喰(じゃばみ)古墳は、神谷(かみや)2丁目にある全長約45メートルの市内最大の前方後円墳で、埴輪(はにわ)などは出土していません。古墳時代後期に造られたと考えられており、後円部の墳頂(ふんちよう)には稲荷神社の祠(ほこら)が祀(まつ)られていました。	3
4	平安時代末期、奥州で起こった、後三年合戦(ごさんねんかっせん)で活躍したとされる鎌倉権五郎景政(かまくら ごんごろうかげまさ)は、奥州(現在の東北地方)から故郷の鎌倉へ帰る途中、牛久の桂(かつら)町付近を通過した際に、敵の攻撃を受け、桂川(かつらがわ)へ転落死したという伝承が残されています。	4
5	江戸時代は参勤交代や物資輸送のため交通が発達し、幕府も全国支配の必要性から五街道の整備につとめました。水戸道中は幕府の重要な街道の一つで、五街道の日光道中に付属します。牛久は水戸道中のほぼ中間にあたり、宿駅として牛久宿が設置されました。	2
6	1629年(寛永6年)、1621年(元和7年)以来幕府領となっていた牛久周辺の旧由良(ゆら)氏領のうち3,300石程度が山口重政(やまぐち しげまさ)に与えられました。以降、廃藩置県までの250年間、牛久市域西部を中心に統治しました。山口氏の牛久藩は、譜代(ふだい)の極小藩で、石高は10,017石余り、水戸街道の牛久宿に隣接する城中(じょうちゆう)村(現在の城中町)に陣屋を置いて支配しました。	1
7	五十瀬(いそせ)神社には、1923年(大正12年)に建てられた酒島村霊泉之碑(さけしまむられいせんのみ)が建ち、神社側の井戸から酒が湧き出たとの伝えがあり、下根(しもね)町・中根(なかね)町・東大和田(ひがしおおわだ)町を酒島(さけしま)村と称していました。	2
8	国指定重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設(きゅうじょうぞうじょうせつ)は、1903年(明治36年)に日本初の本格的なワイン醸造場が初代神谷傳兵衛(かみや でんべえ)によって建てられました。かつて、旧事務室2階では著名人松方正義(まつかた まさよし)、大山巖(おおやまいわお)、児玉源太郎(こだま げんたろう)、板垣退助(いたがき たいすけ)などを招いたワインパーティが催(もよお)されていました。	2
9	あんパンは、現在の牛久市出身の木村安兵衛(きむら やすべえ)が1874年(明治7年)、東京銀座尾張(おわり)町(現東京都中央区銀座)の「木村屋」で製造販売したのがはじまりです。当時のオランダ仕込みのパンは固く、まんじゅうや団子などに慣れた日本人には不向きのため、ふっくらしたパン作りに工夫を凝らし、酒まんじゅうをヒントに、パンの中に餡(あん)を詰めたことが、元祖あんパンの誕生とされています。	3
10	牛久駅は、東日本旅客鉄道(JR東日本)常磐線の駅で、1896年(明治29年)12月25日に開業しました。1984年(昭和59年)に現在の駅舎になり、2014年(平成26年)には、1日平均13,360人が利用しています。	1
11	旧岡田小学校女化(おなばけ)分校(旧女化分教場)は、子どもたちの教育の場だけではなく、地域の人びとの集会場としても利用されました。現在の校舎は1939年(昭和14年)に建てられ、1972年(昭和47年)に閉校するまで多くの子供たちが利用しました。	4
12	雲魚亭(うんぎょてい)は、小川芋銭(おがわうせん)の最晩年に建てられた、住まいを兼ねたアトリエです。芋銭が雲魚亭へ入居したのは1937年(昭和12年)の秋で、間近に迫った展覧会の作品制作や「河童百図」刊行のため、多忙な日を送りました。しかし、年が明けた1月末に脳溢血(のういつけつ)で倒れ、同年12月に亡くなりました。現在は、市の文化財に指定され、「小川芋銭記念館」として一般に開放されています。	2
13	牛久沼に住むいたずらものの河童を、力自慢の村人が捕まえて大きなマツ(松)の木に縛りつけたという伝説が残っています。	3
14	牛久村は1954年(昭和29年)に1月に町制施行し、牛久町が誕生しました。その後、同年4月に牛久町は岡田村と合併しました。翌年1955年(昭和30年)には奥野村と合併しました。1986年(昭和61年)6月1日に市制施行し、牛久市となりました。	2
15	自由と平等を訴えた女流作家として有名な住井すゑ(すみい すえ)は、農民解放を目指した農民文学者・犬田卯(いぬた しげる)と結婚し、夫の郷里である稲敷郡牛久村城中(じょうちゆう)(現在の牛久市城中町)に転居しました。夫の死後、56歳で「橋のない川」の執筆を開始し、自由と平等を求めて差別と闘うこの物語は、ロングセラーとなり、後に映画化されました。	1
16	牛久市内には、筑波南桂(みなみかつら)工業団地と筑波南奥原(みなみおくばら)工業団地があります。	4
17	牛久沼は龍ヶ崎市にある小貝川支流に含まれる沼です。牛久市と同じ名前ですが、牛久沼全域が龍ヶ崎市の区域内となっています。牛久沼周辺の自治体としては、龍ヶ崎市、牛久市、つくば市、取手市、つくばみらい市です。	4
18	1889年(明治22年)の町村制施行により、牛久村、岡田村、奥野(おくの)村の三つの村が誕生しました。1954年(昭和29年)に牛久村と岡田村が、翌年には奥野村が合併しました。さらに1957年(昭和32年)に阿見町の一部が編入され、現在の面積(58.92平方キロメートル)となる牛久町が誕生しました。その後、1986年(昭和61年)6月1日に市制施行し、牛久市となりました。	2
19	落花生は南アメリカ原産の植物で、江戸時代に日本に伝わったといわれています。茨城県は作付面積第2位の産地で、特に牛久市、阿見町などの県南地域で生産されています。収穫後に畑に野積みにして天日で乾燥させますが、その野積みのことを「ぼっち」といい、それらが畑に並んでいる風景は、晩秋から初冬の風物詩となっています。	3
20	団子念仏は、桂(かつら)町で毎年、秋の彼岸の入りの前日に行う行事で、各家で団子をつくり金剛院へ供え、金剛院にある大きな数珠を出し、鉦(しょう)と太鼓(たいこ)を叩きながら念仏を唱えます。団子念仏には、先祖供養、悪疫(あくえき)払い、家内安全、五穀豊穡の意味があるといわれています。	1
21	牛久大仏(正式名称:牛久阿弥陀大佛)は、青銅製大仏立像で、全高120メートル(像高:100メートル、台座20メートル)あり、立像としては世界第3位、青銅製立像としては世界最大を誇ります。建てられたのは1989年(平成元年)です。	4
22	今年で29回目を迎えたうしく・鯉まつりは、毎年5月3日(憲法記念日)に行われています。牛久市役所と西側の近隣公園にて、夢の広場、希望の広場、創造の広場、自由の広場などの各エリアで楽しいイベントが催されており、多くの市民が集う機会となっています。	2
23	2015年(平成27年)に開局した牛久コミュニティ放送は、牛久市、阿見町、つくば市、龍ヶ崎市、稲敷市、美浦村、土浦市の一部地域を放送区域とするFM放送。スタジオは牛久市保健センター2階で、周波数は85.4メガヘルツです。	3
24	牛久市の水道は、水源が利根川の牛久配水場と、霞ヶ浦と利根川が水源の若柴(わかしば)配水場(龍ヶ崎市)から供給されています。	4
25	2017年(平成29年)3月現在、牛久市の人口は約8.5万人です。20年前の1995年(平成7年)は約6.5万人なので、人口が約2万人増えていて、常磐線沿線の市町村では唯一、人口増加を続けています。	3